

「中東・イスラームの歴史と歴史空間の可視化分析—デジタル化時代の学知の共有をめざして」（2022 年度第 1 回研究会）

2023 年 3 月 22 日（水曜日）午後 14 時より午後 18 時

**14:00–14:40 第 1 報告 伊藤隆郎（神戸大学）、太田絵里奈（東京外大 AA 研）**

「15 世紀アラビア語伝記集のデジタル解析に向けて」

**14:45–15:25 第 2 報告 佐藤将（東京外大 AA 研）**

「GIS を用いた歴史的カイロの都市空間の分析」

**15:30–16:10 第 3 報告 加藤博（一橋大学名誉教授）**

「空間から歴史を読み解く：大戦間期エジプト・スエズ運河の船舶通過事情」

**16:10–16:30 休憩**

**16:30–16:40 コメント 1：後藤寛（AA 研共同研究員、横浜市立大学）**

**16:40–16:50 コメント 2：新井和広（慶應義塾大学、C01 班研究分担者）**

**16:50–17:30 ディスカッション**

コロナ禍に始まった本研究は、最終年度にして初めて対面にて共同研究員が顔を合わせる研究会を開催することができた。この 3 年間、思うように活動できない状況が続きながらも、図らずともデジタルに依存せざるを得ない状況において、本研究課題はまさに時宜をとらえたテーマを掲げ、テキスト分析、GIS、VR といった手法の開発に取り組んできた。本研究会はその成果を報告し、総括する場として設定された。

第 1 報告は、15 世紀アラビア語伝記集のデジタル解析に向けてこの 3 年間取り組んできた人名録のデジタルテキストの作成と、人名録のデジタル解析の手法についての報告であった。伊藤氏と太田氏、そして熊倉は学内の学部生の力を借りながら、12,000 人もの人物を収録するアラビア語人名録のテキストのデジタル化を進めてきた。この人名録のデジタルテキストは、Kitab（キターブ）プロジェクトが公開するコーパス内にすでに収録されていたが、それを元のテキストファイルと照合していったところ、多くの誤字や脱落が見つかった。歴史学においては、史料批判が議論を構築する上で重要な一角をなすため、分析するテキストの不正確さは致命的である。そこで、より精度の高いデジタルテキストを作成することとなり、近々完成の予定である。また、伊藤氏が現在取り組んでいる、自動タグ付けのための教師データの作成、太田氏が取り組んでいる RDF による関係性の記述といった最先端の分析・手法についても紹介された。

第 2 報告は、カイロ旧市街の街路の接続性を GIS 解析で明らかにしようとするものであった。イスラーム都市は、ハーラ（街区）を核として構成され、閉鎖的な都市空間を織りなしているという言説を、道の接続性から批判的に検証・修正しようというのがこの研究の動機である。佐藤氏は、都市工学の分野で使われている axial analysis という手法を用いて、カイロ旧市街の街路の接続性・開放性を図示化して示した。その結果、旧市街の中を貫くいく

つかの幹線道路を軸として、多様な接続性を持つ街路が組み合わさって旧市街の空間が成り立っていることが明らかとなった。

第 3 報告は、歴史学における空間分析の意義を実践例に基づきながら示すものであった。加藤氏は、統計と地理情報を、新しい問題群を見つけるため、情報の数量化と空間化によって情報の操作性を高め、情報解釈の幅を広げる補助資料であると位置づける。20 世紀前半を対象としたエジプト貿易に関するデータ群の可視化はエジプト（スエズ運河）を介したネットワークを示すとともに、その密度の濃淡も明らかとなる。また氏は、生産地と消費地を結ぶ航路に当たる部分の経済構造の重要性についても述べ、人の移動やネットワークをコストとしてではなく資産として見るべきであるという示唆的な見解を示した。

以上の報告を踏まえ、新井氏、後藤氏からは、デジタル分析のメリットはパラメーターを様々に設定することが可能である点が確認され、この点を基軸としながらディスカッションが展開した。たとえば、佐藤氏の報告に対しては、住民側の目線で見たときの接続性の問題は別にあるのではないかという点（住人にとって、[接続性の高い] 道路に出る必要がどれほどあったのか？）や、インフラへのアクセスの方が重要だったのではないかという指摘があった。この他には、デジタル化の進展について、自動的にタグ付が可能となる日が近いのであれば、現状自分たちが地道なタグ付作業にどれだけの労力を割くべきかといった疑問も呈された。一方で、デジタル技術の進展は日進月歩だからこそ、学知を共有することのできるプラットフォームが必要であり、本研究課題終了後に、そうした場を維持し続けることの重要性が確認された。